

提 言 書

令和 5 年 2 月 20 日

令和 4 年度水戸市市政モ二タ一

目 次

テーマ「水戸市の移住・定住促進に向けた取組」	1
市政モニター提言	2
①子育て・教育	2
②みとで働く	15
③ON/OFFもみとでいられるまちづくり	20
市政モニター活動内容	31
市政モニター名簿	33

テーマ「水戸市の移住・定住促進に向けた取組」

私たち市政モニターは、「水戸市の移住・定住促進に向けた取組」をテーマと定め、この1年間研究してきました。

水戸市への移住や定住が促進されるまちづくりについて検討を行った結果、私達が希望するまちの姿を別冊のとおりまとめました。

そのまちを実現するために、「①子育て・教育」、「②みとで働く」、「③ON/OFFもみとでいられるまちづくり」の3つの小テーマとして、次のとおり提言いたします。

①子育て・教育

- 【提言1】子育て世代に優しく、自然の中でのびのび子育てできるまち
- 【提言2】夜道も安心安全で明るいまち 専用歩道の環境が整った安全なまち 水戸市
- 【提言3】子育て世帯の居場所があるまち
- 【提言4】学校教育の環境が整い、安心して子どもたちが学び生活できるまち
- 【提言5】教育のまちMITO
- 【提言6】どんな環境で生活する子どもでも高水準な教育を受けられる
「子どものための教育施策により移住者に選ばれるまち」
- 【提言7】家庭で子どもと接する時間とお金の余裕を増やせるまち

②みとで働く

- 【提言8】産業が盛んで、雇用が創出されるまち
- 【提言9】若者が能力・個性を発揮できるまち
- 【提言10】大人になっても学べる・スキルアップできるまち

③ON/OFFもみとでいられるまちづくり

- 【提言11】文化財が伝える、郷土の伝統が息づくまち
- 【提言12】ウォーカブルシティ・水戸
- 【提言13】子育て世帯にとって便利で快適な生活空間が広がるまち
- 【提言14】安全の魁のまち水戸市
- 【提言15】「よそのもの」移住者でも仕事・家・主要地とのアクセスなど
生活基盤を確保しやすいまち
- 【提言16】自然環境にやさしいまち

①子育て・教育

【提言 1】子育て世代に優しく、自然の中でのびのび子育てできるまち

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私がつくりたい水戸市は、すべての子どもがのびのび遊ぶことを通して、健全で自立した優秀な人材に育ち、将来の水戸市を担ってくれるように成長できるまちです。
- ・このまちのすべての子供は、安心・安全かつ自然豊かで広大な都市公園や屋内遊戯場等において、夢になって、走り回ったり飛んだり跳ねたり転がったりするような全身を使った遊びができます。
- ・このまちでは、「だれでも、いつでも、どこでも、安心して遊べる環境がある」ことにより、移住・定住が促進されています。

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「子どもがのびのび遊ぶなかで健全に育つ環境」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】

移住者・地元出身者関係なくすべての子育て世帯が公園に関する情報を得られるようにするため、水戸市民・移住検討者に向けて公園の魅力や特徴の情報発信を行う

○備考

地元出身者と移住者で、公園などの子供の遊び場に関する情報格差があるため、全ての市民および移住検討者に市内の公園の情報や魅力を伝えることが重要である。

取組 1

公園の魅力などを水戸市民・移住検討者へ伝えるために、下記の情報発信を行う。

- ・市内にある公園のガイドマップを作成し、市のホームページで公開する。
- ・外部の情報ツール（例えば最も利用者の多い GoogleMap など）にも、各公園の詳細な情報を写真とともに紹介し、公園のガイドマップへのリンクを掲載する。

・公園のガイドマップには、利用者目線で、詳細な情報をわかりやすく掲載する。

例えば、駐車場の場所や料金の情報、遊具の場所や種類・対象年齢、水遊びができる場所、環境教育に関する情報（湧き水や植物・昆虫・水生生物：ホタルやザリガニなど・鳥など）、歴史教育に関する情報（史跡など）、季節の花の情報（桜・梅）、ランニングに適したコース、犬の散歩に適した場所など。

・デジタル（SNS のハッシュタグ等）・アナログを組み合わせた、市内公園の写真コンテストを毎年実施する等、様々な年齢層の市民を巻き込む形で広報をする。

【課題】 子どもが安心・安全な環境でのびのび遊べるようにするため、公園内の遊具エリアを増やし、年齢ごとの遊具のエリア分けや、ぬかるみの対策を行う ○備考 少年の森や千波公園の遊具エリアは、土日は特に利用者が集中し、遊具も駐車場も不足している状態である。また、遊具で遊んでいる子供同士の衝突や、雨上がりに転んで汚れたり、怪我をする危険もある。	
【課題】 子供がより夢中になって全身を使った遊びを行い成長につながるようにするため、スマホやゲームで遊ぶより楽しい、身体能力を伸ばせる遊具を設置する ○備考 現在設置されている遊具の数・バリエーションが少なく、遊具が子供の発達段階によって難しい・簡単すぎることで、少し遊んだら飽きてしまい、早々に帰ろうかと言い出すことがある。また、せっかく公園に来ているのに、身体を使った遊びをせずスマホやゲームに集中している場面もよく見かける。さらに、伸ばしたい身体機能まで考えた遊具選定となっていないため、遊びを成長に繋げにくい。といった課題がある。	

取組 2	子供がより安全に、全力でのびのび遊べる公園とするため、以下について整備を行う。 ・混雑を緩和するため、駐車場が整備されているが利用者が比較的少ない公園（南側旧消防学校跡地駐車場付近、桜川駐車場付近、西の谷公園、桜山の駐車場付近など）に、新たに遊具エリアを設置する。 ・新設した遊具エリア、既存の少年の森及び森林公園等において、遊具の選定や配置を対象年齢に応じて意図的に分けするなどによって、幼児が遊ぶエリアや小学生等が遊ぶエリアが分かれるよう工夫する。 ・遊具がある場所の足元や、広場となっている場所に重点的に芝生を整備することを次期水戸市緑の基本計画における公園整備の方針とする。遊具エリアへの芝生の整備が難しい場合は、ラバーマットを敷設するなどの方法により、ぬかるみ対策を行う。
取組 3	以下について、次期水戸市緑の基本計画における公園整備の方針とする。 ・遊具を新設する場合、使用する身体機能に着目してバランスよく遊具を選定・配置することで、遊びを通して自然と身体能力を伸ばせるように工夫する。 例えば、発達段階に合わせた様々な難易度の障害を乗り越えてゴールするようなアスレチック遊具であれば、様々な年齢の子供が楽しさ・達成感を感じやすい上に、自然と全身をくまなく使った運動を行うことができる。

【課題】

天候に左右されずに、いつでも子どもが遊べる環境をつくるため、屋内遊戯施設等を充実する

取組 4

屋内の遊戯施設を増やす。既存の施設を利用しやすいよう工夫する。

- ・日立市のハレニコのような全天候型遊戯施設を整備する。
- ・市営プールを平日の日中も解放する。
- ・既存の公共施設を活用し、下入野健康増進センターのキッズルームのように、常時屋内で子供が遊べるような場所を提供する。



取組 3 のイメージ

国営備北丘陵公園

<https://www.bihokupark.jp/special/act/play/279>



取組 3 のイメージ

HIROHAI 佐伯総合スポーツ公園大型遊具

<https://www.city.hatsukaichi.hiroshima.jp/site/citypromotion/63971.html>



取組 4 のイメージ

Hi タッチらんど・ハレニコ！

<https://hareniko.com/>

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私がつくりたい水戸市は、市民が望む場所に外灯が適切に設置されているなど、交通事故の心配がない、市民の安心と安全の両方が叶う明るいまちです。
- ・このまちの市民は、夕暮れ時の薄暗い夜道や通学路において安心安全にお買い物やお散歩ができます。
- ・このまちでは、「安全第一に考えられた生活がしやすい」ことにより、移住・定住が促進されています。

このまちをつくるために、この提言で実現したいことの1つ目は「夕暮れ時も足元が明るく安全な」とです。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】 市民がよく歩く道を明るくするため、暗い道が続く場所へ外灯を設置する	取組 5 特に通学路等で外灯が無く暗い道をリスト化して、必要な場所に外灯を設置することが望ましいが、一例として以下の場所への設置を提言する。 吉田 78 号線の茨城県立水戸特別支援学校前に外灯（足元ライト）を設置する。
--	--

2つ目は、「交通事故の危険がなく、安心安全な通学路が多いまち」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】 児童生徒が車や自転車と接触しなくなるようにするため、危険な通学路に専用歩道を整備する	取組 6 特に通学路等で車や自転車との接触の危険がある場所をリスト化して、必要な場所に対策をとることが望ましいが、一例として以下の場所への専用歩道を提言する。 県道 180 号（吉田小前～吉沢小付近まで）に専用歩道（※）を整備する、又は、デコボコな歩道をフラットに整備するよう、県へ要望する。 ※専用歩道とは歩行者と自転車が車道とは別に安全に通れる道
---	---

画像
（著作権関係確認中）



取組 5 のイメージ
対馬市厳原大町通り
<http://asunotsushima.blog56.fc2.com/blog-entry-794.html>

取組 6 のイメージ
水戸駅南口の写真

【提言 3】子育て世帯の居場所があるまち

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私がつくりたい水戸市は、公共施設等において子どもと一緒に現役の子育て世帯が集まることができ、楽しい交流が生まれているまちです。
- ・このまちの市民は、親同士の交流ができる場所が身近にあることから、子育てに伴う悩みの相談や有益な情報交換等を簡単に行うことができるため、皆で協力して子育てをすることができます。
- ・このまちでは、「親同士の支え合いがあること」により、移住・定住が促進されています。

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「心の負担のない子育て環境」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】

家庭環境が似ている子育て世帯が身近な場所で話ができるようにするため、交流の場をつくる

取組 7

子育てにあたっての細かな悩み事は、現役の子育て世帯でないと理解されないことがよくある一方、多世代交流（高齢者が見守る、子育て広場）や仕事上のやりとり（保育所や認定こども園が行う、地域子育て支援拠点事業）に重きが置かれているため、悩みの共感がしにくい現状を踏まえ、現役の子育て世帯同士が交流できる機会を設ける。

具体的には、市民センターを、特定の曜日に子育て世帯向けに開放し、不特定多数の子育て世帯の交流の場をつくる。

なお、実施に当たっては、子育て世帯間の交流を生むため、利用人数の少ない地区の市民センターについては子育て世帯の託児ボランティア等を配置する。

取組 8

市民センターの利用手続きについて、以下の条件を満たす場合には、団体としての登録がなくても利用できるようにする。

- ・ 5名以上で利用すること
- ・ 代表者が明確であり、連絡を取れること
- ・ 親同士の交流を目的としていること
- ・ 子どもを連れて集まること

【提言 4】学校教育の環境が整い、安心して子どもたちが学び生活できるまち

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私がつくりたい水戸市は、子どもたちの心のケアが充実しているため、子どもたちが安心して通学出来る環境が整っています。
- ・このまちの市民は、学校生活において、子どもたちが集団生活をとおして成長していくために、伸び伸びと学ぶことができ、先生はその学びや不安の解消へのサポートを行っています。
- ・このまちでは、「学校に自分の居場所が必ず見つかる環境が整っている」ことにより、移住・定住が促進されています。

このまちをつくるために、この提言で実現したいことの1つ目は「小中学校で不安なく学べること」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】 子どもたちが、前向きな気持ちで登校し、勉学に集中できるようにするため、校内での対人関係の不安を無くす	取組 9 学校のように多くの人が集まる場では他者との折り合いがつかない状況が生じるのは避けられない一方、学校で子どもたちが取れる選択には限りがあるのが実態である。 その具体的な状況はそれぞれの生徒によって様々であり特定することはできないが、いずれにしても、不登校等といった、登校状況という結果に現れる。 以上を踏まえて、不登校や不登校気味の生徒は、年度途中でも任意の同学年のクラスを自由に選んで異動することができるようにする。
--	--

2つ目は「状況に対応した、先生等による生徒へのサポート」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための手段を提言します。

【課題】 先生の負担が少ない環境を構築するため、担任を支える職員を配置する	取組 10 各クラスに一人副担任を配置して2人体制でクラスを運営することにより、担任の支援を図る。 これにより担任にとって不得意な状況に対しても、副担任が対応することができる。 そのため、副担任は生徒の心理的な面を専門に支援する等、それぞれが役割分担を行うことが望ましい。
【課題】 生徒の多様な不安に対するサポート体制を構築するため、生徒を支える職員を配置する	取組 11 生徒の悩みに対応する職員を配置して、以下のように生徒への支援を行う。 ・各学校で行われている悩み調査等の結果を踏まえながら、悩みへの精神的なサポートを行う。 ・授業を一緒に受けること等によって、悩みを持った生徒との精神的な距離を縮める工夫を行う。

【提言5】教育のまちMITO

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私がつくりたい水戸市は、自然や社会における「遊び」の中から新たな気づきを発見することで、高い水準の思考力や郷土愛を育むことができる「教育のまち」です。
- ・このまちの市民は、「遊び」と「学び」を融合したフィールドワーク等によるまちの体験を通して、まちそのものから学びを深めています。
- ・このまちでは、「学びのスマート化による郷土愛の醸成」により、移住・定住が促進されています。

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「水戸市への郷土愛が育まれ、継承されていくこと」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】

市民が自主的に水戸市のまちに触れて学びを深めていけるようにするため、学校教育でのフィールドワーク学習（※1）を促進する

※1：ここでのフィールドワーク学習とは、教養を深めるために、遊びの視点を取り入れながらまちに触れて、その土地の歴史文化、産業、自然環境等を体験していく取組をいう。

取組 12

インターネットサイト「歴史講談 水戸漫遊（※2）」を運営しているJR東日本と協働して、フィールドワーク学習ツール『MITO散歩（※3）』を開発する。その『MITO散歩』を、遊びから多くを学べる感受性の高い小学生に提供するため、小学校教育に取り入れる。

実施に当たっては、課外活動（任意参加）として行い、教師がファシリテーターとなる。なお、スマートフォン等を持っていない児童も参加できるように、参加者でグループを作りグループ内にスマートフォン等が1台あればいいようにする。

併せて、保護者も参加できるようにして、家族への普及も図る。

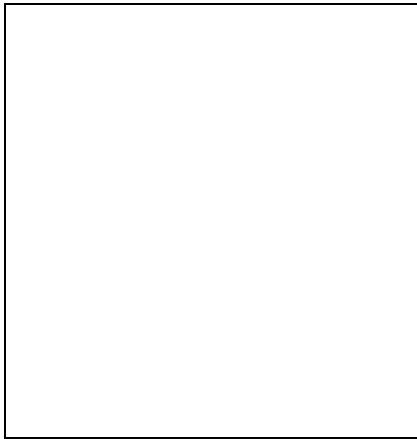
※2：歴史講談 水戸漫遊について

水戸駅周辺、偕楽園～水戸城址エリアの「水戸の城下町 MAP（幕末版）」と位置情報（GPS）がスマートフォンなどのオンライン上で連動し、今と昔の対比を楽しみながらまち歩きができるインターネットサイト。

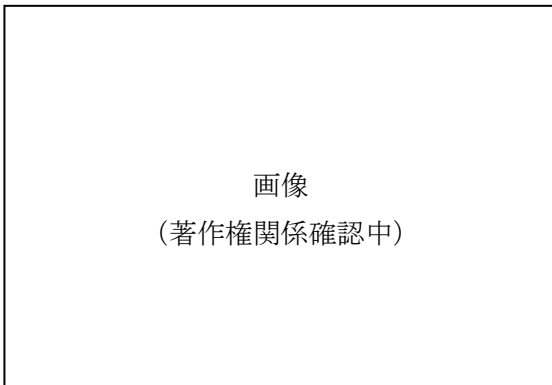
※3：MITO散歩について

千波湖や弘道館を中心とした歴史的史跡や自然を舞台とした、学習として享受できる体験型フィールドワークのインターネットサイト又はアプリケーション。これには次のような機能が備わっている。

- ・QRコード等に対応し、簡単に使用できる
- ・AR（拡張現実）等の最新技術を活用



- ・小学生が楽しめるような、水戸に関するゲームやクイズ
- ・遺跡や史跡において、過去の建造物や歴史上の人物がスマホ（タブレット）上に再現表示される「歴史再現型」の機能
- ・撮影した画像に対応して、教養を深めるための詳しい解説（動画）が出現
- ・実写画像の上に、みとちゃんや地域ゆかりのキャラクターが登場し、一緒に記念写真が撮れる



画像
(著作権関係確認中)



画像
(著作権関係確認中)

J R東日本：歴史講談 水戸漫遊
出典：J R東日本ホームページから



フィールドワーク学習のイメージ
出典：水城高校ホームページから

**【提言 6】どんな環境で生活する子どもでも高水準な教育を受けられる
「子どものための教育施策により移住者に選ばれるまち」**

【理想とするまちの姿（要旨）】

・弘道館の教えを現代版に解釈し、学問だけではなく武芸(スポーツ・芸術)も重点化した教育プログラムにより、教育移住者に選ばれるまちを目指す。

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「子どもの学校環境の向上だけではなく、学校外の教育プログラムがあり様々な経験を街で学べる水戸市」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】

・学校教育の中での先生の負担増により子どもに齎寄せが行っている

・心身障害等ハンデがある・サポートが必要な子どもの受け入れが進んでおらず学区から遠い学校や特別支援学校への進学、母親の付き添いが前提など家庭の負担が大きい

・内申点による進学判定があるが加点方針が不透明であり教師に忖度する制度となっている。また学校ごとに差異がある。

・部活動の先生の負担があり不適切な練習・教育の温床になっている。また選択の幅が限られており、マイナー競技は選択できない。

取組 13

・先生の増配、30 人学級により先生間での負担を減らすとともに全ての子どもに届く学校にする。先生の確保手段として非常勤の先生の常勤への昇格枠を確保し、人員確保の一助とする。

・学校の IT 環境の整備にも先生の負担がかかっているため、IT 専門の用務員(IT 用務員)を作り市の正規職員として採用し、各学校に配置する。

・適切な先生を採用するために過去の犯罪歴(特に子どもや生活に関わる犯罪)の提出を求める。

・心身障害等ハンデがある・サポートが必要な子どもへのサポートできる学校看護師バンクを水戸市で確保し通学圏学校でサポートする体制に

・内申点の加点の市での共通化・見える化

・部活動を複数の学校で合同で開設することでマイナー競技部活の活性化、部活選択の多様化

・ピアノや美術などの芸術系大学への進学のための追加の教育ができるものは手探りで探すほかない。 ・大学進学では県内での大学の数・質が限られており、選択肢を増やすには都内進学となるが費用負担が大きい	・芸術系大学への進学の実技セミナーの市での開催 ・自宅からの遠方への通学定期での特急利用に補助を設ける
--	--

【提言7】家庭で子どもと接する時間とお金の余裕を増やせるまち

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・サービス自体での親・事業者双方の作業・経済的負担を減らすことで親の可処分時間・所得を増やしコミュニケーションが多く楽しい家庭が多い水戸市を作りたい。

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「就労形態を問わずどんな親でも自宅にいる時間の「子どもの関係の準備」を減らすことで子どもと接する時間と余裕を増やし、コミュニケーションが多く楽しい家庭が多い水戸市を作る」ことです。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】

水戸市での教育・保育、施設利用に関してサービス自体での保護者・事業者双方の作業負担を減らし、子育て支援サービスの利便性の向上をはかることで、家庭で親が子どもの学校や園に行くための準備にかかる時間とお金を減らすことが必要である。

①保護者の可処分時間を確保するために

1.1. 市のサービス・施設の予約や問い合わせをいつでも予約できる

・現在の子育て支援サービス（一時保育、病児病後児保育、学童保育、スポーツ教室、カルチャー教室、市民センターなどの施設利用も含む）の予約は営業時間中の電話のみのところが多くあり利用者の利便性だけではなく事業者も手を止めての対応が必要になりネット予約で双方共に利便性を向上させる必要がある。

1.2. 利用したくてもできない個別のサポートサービス

・産後ケアの利用制約が大きくほとんど希望しても利用できなかった。また個人宅へのサービスとしてベビーシッターや産褥シッターなどの公民間問わずサービス対象としている事業者が少な

取組 14

①保護者の可処分時間を増やすため

1.1. 全市の子育て支援施設・サービス（わんぱく、一時保育、病児保育、産後ケア入院、両親教室・離乳食教室・各種検診など）、市内の公民館市民センターの子育てサークル・スポーツセンターの教室などがWeb等にて登録・予約・変更・問い合わせができるシステムの利用。

1.2. 産後ケアの出産した病院を問わずに利用できるように出産者以外を受け入れる病院へ補助金を出し、産後ケアの枠を確保いただく。

・産褥シッター、子育て支援員などの個別サービスに必要な資格取得講座を水戸市内で開催する、開催の支援（会場の提供など）を行い、サービスができる人を水戸市内で増やしていく

1.2. 認可/認可外保育園や公私立幼稚園、

く、気軽に利用できない。個別に対応している個人も少なくニーズがマッチしないなどで利用が実質的に難しい。ここ数年でシッターに関係する業務をシルバー人材センターが事実上撤退しており、自宅で短時間定期的にシッターにきてもらうサービスがない。 1.3. 保育園では衣類からおむつ1枚、ミルク1パックに至るまで保護者が記名、毎週の布団の持ち帰りなど持ち物が多い。 ・老人のデイサービスでは到底あり得ない。保育園・こども園でのおむつ1枚至るまでの記名し個別に持ち込んでいるが、個別管理のために先生も親も作業リソースを割かれている。お昼寝布団は皆同じ大きさのものを持参するように言われ週初・週末は持ち帰りのため徒歩で登園できる子も車での登園になっている。 ・幼稚園で家庭環境(保育認定の違い)によってお昼ご飯など大人の都合で子どもが友人と異なる状況を生んでいる。 1.4. 学校・PTAの連絡等が紙ベースであること 印刷費、配布の準備時間、プリント渡し忘れによる連絡漏れなどで学校・学級運営リソースを割かれているだけではなく、親たちは子どもが持ち帰り忘れた連絡用紙のために私的なグループラインを開設しそこで確認の投稿をしてお互いでフォローしている。特に外国籍の保護者や心身障害、なんらかの理由で親同士のコミュニケーションから外れてしまう人たちは対応が難しく困っている。	
--	--

	こども園で一時保育でのおむつサブスクサービスや布団リース、制服のリース、給食の一括配送など直接施設へ直送サービスの利用により手ぶら登園が可能にする。 1.3. 全学校共通の保育園・幼稚園・こども園、市立の学校/PTAのWeb等での学校と保護者の双方向連絡システムの整備小学校中学校だけではなく、保育園共通のサイトにすることでシステムの理解・アカウント設定を何度もせずに水戸市で保育園に通わせたら義務教育が終わるまで1つのシステムだけ確認すれば良いようにする。
--	---

②保護者の可処分所得を確保するために

2.1. 幼稚園の延長保育の時間が短すぎ、幼稚園入園後に社会復帰したい人も時間制約の強さから時短勤務・パートなど給与水準低い仕事しか選べない。

2.2. 学校・施設指定品が高く・お店が少なく買えない。

・幼稚園・保育園・学校を通じて制服・靴・体操服・部活動用購入品などを保護者が購入するが個々で違うものを指定しており、販売業者・店舗も限られており、お下がりが使えない、金額が高価、入手のために仕事を早退するなど保護者の負担が大きくなっている課題がある。また巷でいうラン活も自由な選択とはいえ低所得の家庭だけではなく多胎児で何人分も用意する必要のある家庭にとっては経済的な負担が大きい。

2.3. 部活動の負担

・ユニフォームや競技用具、楽器など個人所有か学校で管理か明確な規定がなく、言われたままにかわざるを得ないが、成長期でサイズが変わり買い直しになるもの、年に何回着るかわからないものなども混在していて親の負担感が大きい。

②保護者の可処分所得を確保するために

2.1. 幼稚園の延長保育を保育園並に 18 時～19 までに延長

社会復帰する人の職種選択の自由度を広がり、より給与水準の高い仕事につくことができ、世帯収入を向上させることができる。またフルタイムの親をもつ子どもの選択肢に幼稚園が入りより子どもの特性に応じた保育・教育を受けられるようになる。

2.2. 学校指定用品の汎用品化や低廉な価格のものの指定

市内で同じ制服や体操服・靴・靴は共通化し、微細なタグ・ネクタイやリボンのみ学校別にすることでリユースや転居後の買い直しも不要になる。ジェンダーフリー化により男女のお下がりも可能となる。また、体操服や靴・靴など買い替えが必要になるものは近くの量販店やスーパー、コンビニでも用意があれば深夜に買い求めることができる。低廉な標準品を指定することで親は高価なランドセルの予約に振り回されることなく就学準備の手間と費用を削減できる。またオンライン学習の今、短期間しか利用しない算数のおはじきセットなど従来見直しし費用低減あるいはより性能の良いタブレット購入に回せるようにしてほしい。

2.3. 部活用品の私的購入のガイドラインの制定

毎日の練習着は体操服、試合着用のユニフォームは学校管理(部活費や公費で購入)で試合の時に貸し出し返却などすることで親の負担が減る。購入物品や遠征費用の私費、学校管理、補助のガイドラインを決め保護者の負担を減らす。(補助申請のシステム化もあわせてお願いしたい)

②みとで働く

【提言 8】産業が盛んで、雇用が創出されるまち

【理想とするまちの姿（要旨）】

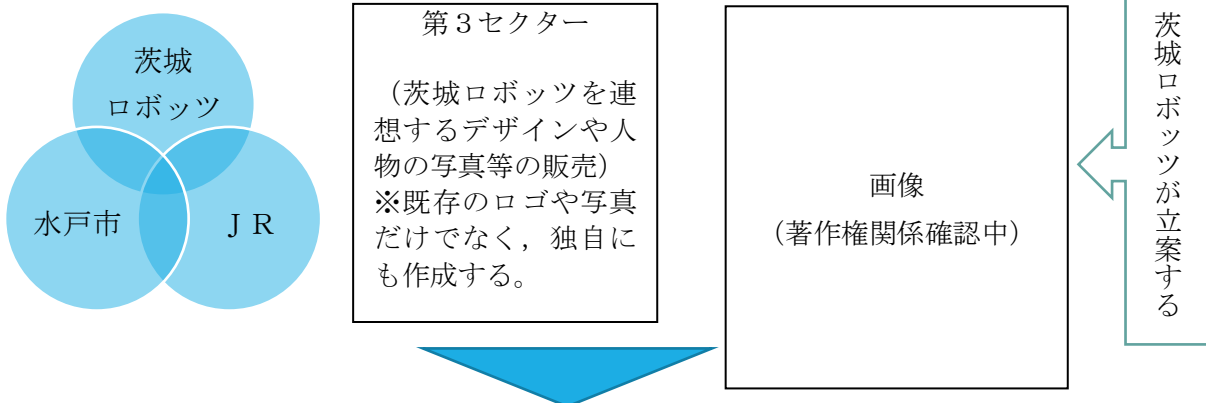
- ・私がつくりたい水戸市は、「第3次産業を核とした活発な民間投資」、「市内金融機関の信用創造による健全な資金循環」、「高水準の労働賃金」が実現している、日本を代表する経済のまちです。
- ・このまちの市民は、経済の先行きに明るい希望を持っているため、活発な経済活動を行っています。
- ・このまちでは、「豊かな経済環境」があることにより、移住・定住が促進されています。

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「**第3次産業を核とした活気ある経済**」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】 活発な産業活動が市内で展開されるため、地域内サプライチェーン（※）を強化する ※ここで言う地域内サプライチェーンとは、水戸市内を中心に、生産から販売まで完結する企業の生産体制のこと	取組 15 地域内サプライチェーンを強化するためには、中心市街地が重要な拠点であると想定する。 そこで、茨城ロボッツ、水戸市、東日本旅客鉄道（株）水戸支社（JR）によって市内民間企業の売り上げを伸ばすための茨城ロボッツブランドを販売する第3セクターを設立し、茨城ロボッツを連想するデザインや人物の写真等を民間企業に販売する。 それぞれの主な役割は次のとおり。 茨城ロボッツ：茨城ロボッツブランド（民間企業が商品を生産する際に使用する、茨城ロボッツを連想するデザインや人物の写真等）の立案、いばらきスポーツタウン・マネジメントや中心市街地の位置等を活用した地域内サプライチェーンの構築 水戸市：市内の民間企業が茨城ロボッツブランドを活用するために市内金融機関から融資を受けるときの金銭補助、市内民間企業への茨城ロボッツブランドの広報等 JR：地域と連携した地域活性化事業のノウハウの活用、広域的視点からのマーケティング戦略立案 この第3セクターが成功すれば、併せて次のような成果も狙える。
---	--

	・京成百貨店等での商品販売による中心市街地の歩行者数の増加 ・地域金融機関の貸し出し増に伴う信用創造の活性化 ・中心市街地自体のブランド化 【備考】 笠間市，東日本旅客鉄道（株）水戸支社（ＪＲ），常陸農業協同組合の３者により，笠間栗ファクトリー（株）が設立されました。
--	--

企業活動の内容

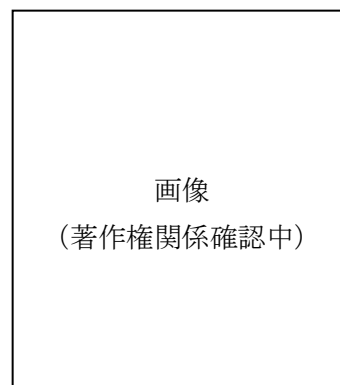
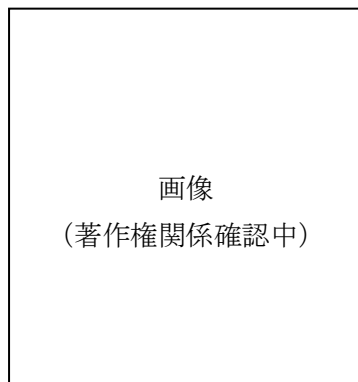


販売先例１：アパレル会社

販売先例２：小売店



水戸市が茨城ロボッツブランドを広報し，販売先の金銭支援を行う



ＪＲが販売先の売り上げ増加につながる仕組み・環境づくりを行う

完成例１：スポーツウェア

完成例２：広告ポスター

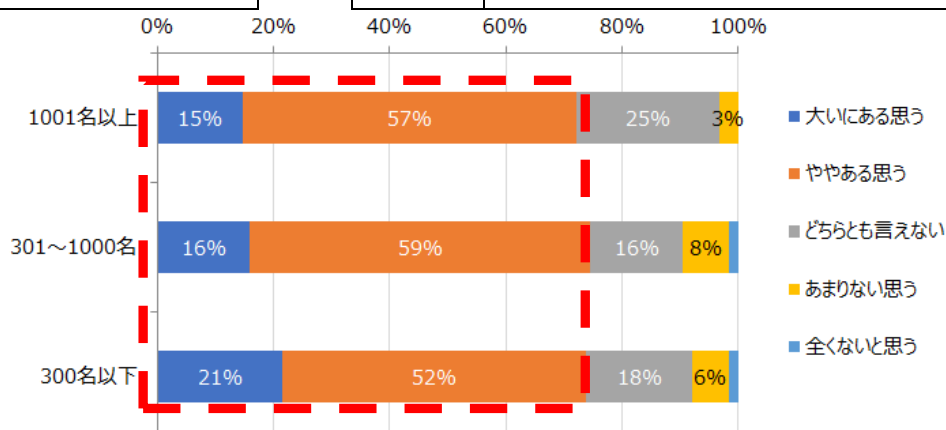
【提言 9】若者が能力・個性を発揮できるまち

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私がつくりたい水戸市では、若者は能力・個性を活かして働き、会社は若者がその可能性を発揮するための場をつくるとともに社会貢献も行い、社会は行政を通じて若者と企業を支えています。
- ・このまちの市民は、若者が「社会や人から感謝される仕事がしたい」や「自分らしく生きたい」といった意識を強く持ち、生き活きと仕事に取り組んでいます。
- ・このまちでは、「若者が将来にわたって自己実現を達成することを応援するまち」であるため、移住・定住が促進されています。

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「若者が能力・個性を発揮できる職場があること」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】 若者が就職しやすい環境をつくるため、若年層の待遇を確保している企業にインセンティブを与える	取組 16 男女の正社員率，男性の育児休業の取得率，育児休業後の復帰率，ブランクのある若手の採用率など，若年層の待遇を確保している企業に対し，市の公共事業での入札・事業者選定においてインセンティブを与え，市全体の意識改善を促す。
【課題】 若手社員が事業提案等の意見を述べやすい環境を構築するため，各企業内でのコミュニケーションの促進を図る	取組 17 経営層と社員のコミュニケーションが円滑でない現状（図 1）を踏まえ，行政が職場におけるコミュニケーションの方法（他社事例）を周知する趣旨から，ガイドブックなどによる広報や経営層向けセミナーを行う。 また，経営層向けには，若手と接するためのコミュニケーション講座やコンプライアンス講座を開講する。この講座は水戸市商工会議所と連携して実施し，受講料を市と商工会議所，会社がそれぞれ等しく負担するものとする。商工会議所は開講場所を提供し，併せて経営層のための相談会を実施する。



【図 1：（経営層と社員とのコミュニケーションについて）自社の社内コミュニケーションに課題があるか】
 中堅企業の約 6 割が「社内コミュニケーションに課題がある」と感じている。

参照：HR 総研，2021，「社内コミュニケーションに関するアンケート 2021 結果報告」

<https://hr-souken.jp/research/2571/>

【課題】

希望する若手社員に対して企業がキャリアコンサルティングをできる環境を構築（図2）するため、民間企業への人材支援を行う

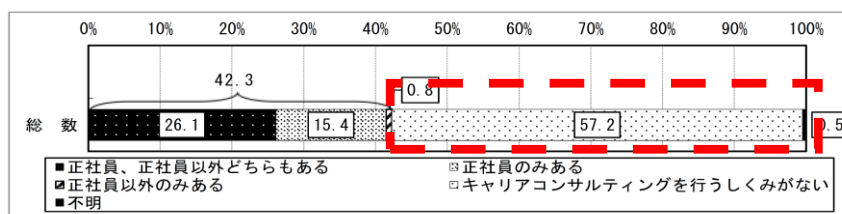
※キャリアコンサルティングとは、労働者の職業の選択、職業生活設計又は職業能力の開発及び向上に関する相談に応じ、助言及び指導を行うこと。

取組 18

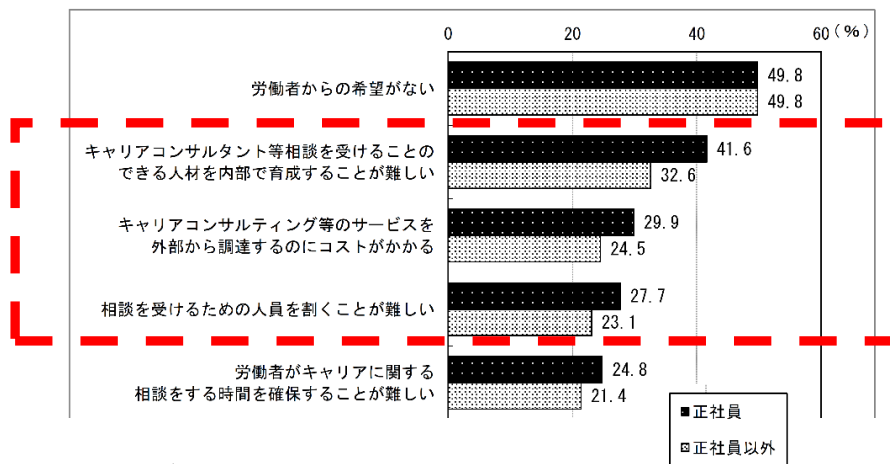
民間企業においてキャリアコンサルティングを実施できる人材が不足している現状（図3）を踏まえ、民間企業にキャリアコンサルタントの資格を持った者を紹介・派遣する。実施に当たっては、キャリアコンサルティングのサービスを受けることに対するコストへの懸念があるため、無料で実施する。

さらに、民間企業内でキャリアコンサルティングをできる人を育成するために、行政がキャリアコンサルティング講習会を開催する。これにより、キャリアコンサルティングを実施したくてもできない民間企業にとって、コンサルティングのハードルを下げるができる。行政が講習会を開催することで、より安心して人材育成をすることができる。

【図2：キャリアコンサルティングを行うしくみの導入状況】



【図3：キャリアコンサルティングを行っていない理由（複数回答）】



＜キャリアコンサルティングを実施できる人材の不足について＞

正社員または正社員以外に対してキャリアコンサルティングを行うしくみを導入している事業所は42.3%であり、「キャリアコンサルティングを行うしくみがない」とした事業所は57.2%であった。

キャリアコンサルティングを行いたい希望はあるが、行えていない理由としては、

- ・「キャリアコンサルタント等相談を受けることのできる人材を内部で育成することが難しい」（正社員 41.6%，正社員以外 32.6%）
- ・「キャリアコンサルティング等のサービスを外部から調達するのにコストがかかる」（正社員 29.9%，正社員以外 24.5%）
- ・「相談を受けるための人員を割くことが難しい」（正社員 27.7%，正社員以外 23.1%）。

参照：厚生労働省，2022，令和3年度「能力開発基本調査」

<https://www.mhlw.go.jp/content/11801500/000953325.pdf>

【提言 10】大人になっても学べる・スキルアップできるまち

【理想とするまちの姿（要旨）】

弘道館の教えを現代版に解釈すると生涯教育が挙げられる。リスキリングやキャリア教育など社会人の学びが重要視される昨今学校に属していない人にキャリアアップのための学びの機会を提供すること

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「老若男女とわず大人の教育としてスキルアップ・キャリアアップのできる実務的な講座の開設・資格試験の会場が提供されいつもの街で試験・講座を受けることができる水戸市」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】 ・ 資格試験の試験会場が東京や近隣県でしかないものも多くスキルアップのハードルとなっている。例えば就職で必要とされる TOEIC は年間のうち半数は水戸で実施されず海外留学に必要な試験は東京まで行き受験が必要である。 ・ 市の主催する講座が半数がカルチャーセンターのような趣味や教養の内容に偏っており、実学的な内容の講座が少ない。また平日昼間に開催のものが多く働きながら学ぶためには参加できないのが現実である。 ・ 中小企業では企業内で外部講師を招聘する教育研修の機会を作ることには限界がある。	取組 19 ・ 資格試験の試験会場の開設での市施設の提供の補助 ・ 市民講座での資格試験対策講座や財務や税法、プログラミングなどの実学的な内容の講座の開校 ・ 市民講座や市の生活や税金・住まいなど全てのセミナーオンライン or 土日開催 ・ 新社会人マナー研修やハラスメント講習、情報セキュリティ研修、キャリア相談などどの業種にも共通する社会人向けの講座を水戸市内の企業の社員向けに合同研修会を市が募集しスキルアップやキャリアアップなどを支援
--	--

③ON/OFFもみとでいられるまちづくり

【提言 11】文化財が伝える、郷土の伝統が息づくまち

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私がつくりたい水戸市は、生活空間が伝統的な文化財等で彩られているため、伝統的な文化財等に息づく先人の知恵を共有することが出来る、歴史感覚に支えられたまちです。
- ・このまちの市民は、児童・生徒は「伝統」に対する敬意を教育によって涵養し、市民は不易流行の精神を大切にして生活しています。
- ・このまちでは、「水戸市の歴史と伝統に対する誇りがあること」により、移住・定住が促進されています。

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「水戸の伝統が継承され、郷土への誇りと愛着が育まれること」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】

水戸の伝統に対する市民の理解を醸成するため、児童生徒への教育を行う

○備考

・有形文化財に「関心がない」32.9%

（内閣府「文化に関する世論調査」調べ）。

・学生が「郷土芸能で『知っているもの』『活動してみたいもの』」は「特にない」60.2%（水戸市 2021）。

無関心層が 3 割を占めると伝統に対する社会の意識全体に影響を及ぼしかねない。

取組 20

・小学校での「まごころプラン」のうち郷土水戸に関する教育において、以下のように水戸の伝統を“自分事”として捉えるプログラムを実施する。

・農人形の伝承（徳川斉昭が食事の度に、農人形に最初のご飯を供えて農民の労に感謝した話）を説明し、児童・生徒が農人形を制作する。「MITO ごはん」の日に、水戸市の農家等を紹介し、農家へ感謝する時間を設ける。併せて、児童・生徒が自ら制作した農人形を膳にのせ、先人の思いとの共有を図る。これにより、農業が人々の生活を支えている重要性、それは時代を経ても変わらないこと、伝統工芸品等からは様々な先人の思いを汲み取れることを学ぶことで、水戸の伝統に対する敬意を涵養する。

・徳川斉昭は『文武不岐』を理念に掲げて弘道館を設立したことを教える。文武不岐は、国を治めるのにふさわしい人物になるため、文武を共に学ぶことによって無知や軟弱を矯正していくことを目的としており、これを実現する手段として書物の読み書き等（文）と剣術等（武）を両立させていたことを説明する。

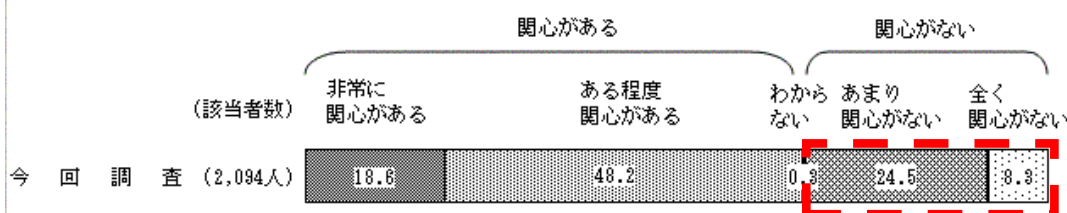
その上で、身のまわりの問題や現代社会の課題を挙げ、その背景には人々のどのような意識や行動があるのかを考える。課題の解決につなげるために、

自分はどのような行動をとるべきかについて、弱さや無知がどうかかわっているかを踏まえながら作文等にまとめる（下記参照）。

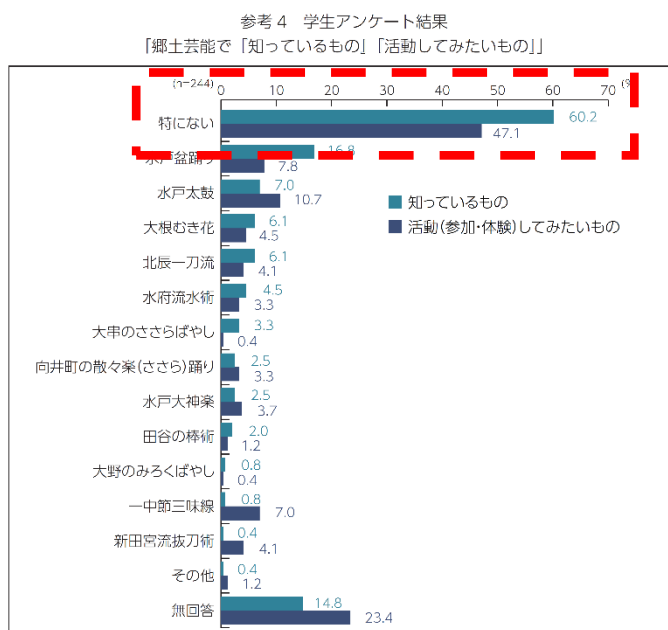
これを実際に弘道館で行うことによって、徳川斉昭が「文武不岐」や「弘道館」に込めた思いや世界観がどういうものであったかを学ぶ。併せて、北辰一刀流の見学や剣道の体験を通して、心身の健康状態を向上させること、自分自身を律し管理することを経験する。これにより、思考力に富み、セルフマネジメントのできるような、次代を担うリーダーの育成も図る。

（作文の例）「ごみのポイ捨ては、ごみを適切に処分することを面倒がるという自分への甘さ（弱さ）、不法投棄が道徳的・法令的に違法であることを知らない（無知）ことが要因の1つである。ポイ捨てを減少させるために、自分が不法投棄をしないことはもちろん、まちの美化活動に積極的に参加する。」

図23 有形文化財への関心度



「文化に関する世論調査」内閣府
<https://survey.gov-online.go.jp/h15/h15-bunka/2-5.html>



「水戸市芸術文化振興ビジョン」水戸市
<https://www.city.mito.lg.jp/uploaded/attachment/10658.pdf>

【提言 12】ウォーカブルシティ・水戸

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私がつくりたい水戸市は、水戸駅～南町3丁目付近において、行きかう人たちが思わず足を止めてしまうような楽しみに溢れており、人々の交流がたくさん生まれているまちです。
- ・このまちの市民は、「水戸市の歴史あるまちなみを活かした、エリアを楽しめる空間デザイン」と「まちなか空間を盛り上げる、新たな楽しさと交流の創出」の視点からまちづくりが進められているため、水戸駅～南町3丁目付近を楽しく歩くことができます。
- ・このまちでは、「市民の交流」により、移住・定住が促進されています。

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「**大手門～二の丸角櫓のウォーカブルシティ・水戸**」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】 思わず足を止めてしまう環境をつくるため、大手門前に休憩スペースを整備する	取組 21 大手門前において、以下をコンセプトにした休憩スペースを整備する。 ・（例）大手門を見やすいようになっていること ・（例）歴史的風景にあっていること ※イメージは下図参照。
【課題】 新たな人でにぎわう環境をつくるため、歴史的風景を盛り上げるイベントを行う	取組 22 水戸の歴史をテーマとしてストリートファニチャーコンペを行い、最優秀賞をそのまま設置する。（設置場所は市有地とする。） ○他市の事例 ストリートファニチャーデザインコンペティション（横浜市・官民連携）
【課題】 歩いて楽しいまちなみとするため、角櫓前の歩道を整備する	取組 23 角櫓前の歩道の壁面に若者を呼び込める漫画などのイラストを描く。 （例）刀剣乱舞

画像
（著作権関係確認中）

画像
（著作権関係確認中）

休憩スペースのイメージ

出典：

<https://tripnote.jp/arashiyama-uzumasa/spot?c=%E5%A4%9C%E6%99%AF>（京都市嵐山駅）

<https://kiteru.site/>
（広島市カミハチキテル）



←隅櫓前の歩道

入口から掲示物等がなく、寂しい印象



←刀剣乱舞

梅まつりとのコラボを行ってきた。
ゲームのダウンロード数はブラウザ版・アプリ版を合わせると 1,000 万ダウンロードを超えている。(2022 年 1 月時点)

出典：

<https://www.walkerplus.com/trend/matome/article/139582/>



ウォーカブルシティ・水戸の図

【提言 13】子育て世帯にとって便利で快適な生活空間が広がるまち

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私がつくりたい水戸市は、中心市街地において、生活必需品を取扱うお店や交通網が充実しているため日々の暮らしに不便さを感じることがなく快適に過ごせるまちです。
- ・このまちの市民は、様々なサービス施設等が中心市街地に集積していることから、買い物、レジャー、仕事、学び、歴史文化交流等をすべて中心市街地で行うことができます。
- ・このまちでは、「快適」により、移住・定住が促進されています。

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「**中心市街地で生活を完結できること**」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】

中心市街地付近の市民が中心市街地で回遊する状況をつくるため、商業施設を始め様々な施設の集中を図る

取組 24

中心市街地に様々な施設が集中する状況をつくるためには、施設にとっての需要（人の賑わい）を作る必要があるため、施設の集中と人の賑わいはイコールとなる。

そこで、人を集める上でのターゲットを親子連れとして中心市街地への集客を図る。

始めに、ここでの子連れの家族の想定を

「土日は中心市街地に行き、京成百貨店や県立図書館等を始めとしたサービス施設を回遊したいと思っているが、あまりイベントを行っていない、人がいなくて活気が無い等のマイナスのイメージがあることから、土日は中心市街地以外で過ごす」ものとする。

このターゲットを中心市街地に呼び込むため、以下の取組を一体的に行う。

・県立図書館周辺の広場、M-SP0、芸術館の3カ所にて同日開催されるイベントへの補助金の交付

・イベント箇所を回遊できるようにクイズラリーやスタンプラリー（MITOGAKU QUESTの拡大版）を実施し、参加者にはもれなく水戸っぽい名産品（かつ簡易的なもの、例えばミニ提灯や印籠）を配布する。

併せて、この名産品を使用すれば、各イベント会場や公共交通機関（タクシー含む）で特典・優待を受けられるよう関係機関と協力する

・公共交通機関で使用するICカードの規格をそろえるための補助金を交付し、移動しやすくする（但し水戸市内に乗り入れる台数分）

【提言 14】安全の魅のまち水戸市

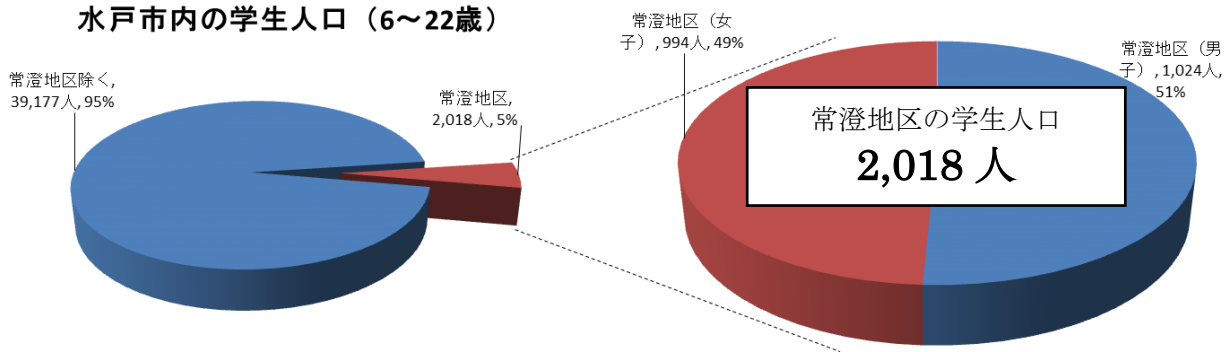
【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私がつくりたい水戸市は、中心市街地が経済、金融、公的機関等の各種サービス施設の拠点となっており、交通インフラが充実しているとともに、歩行者にとって魅力的な環境が構築されています。
- ・このまちの市民は、郊外にも住宅が広がっている環境に対応して、市内全域から中心市街地へのアクセス性が確保されているだけでなく、歩きやすい街並みとなっていることから、全年代の市民が安心・安全に中心市街地を歩くことができます。
- ・このまちでは、「10～30代の若年層が中心市街地に安心してアクセスできること」により、移住・定住が促進されています。

このまちをつくるために、この提言で実現したいことの1つ目は「郊外からも中心市街地に人が集まること」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】 郊外の人でも中心市街地が行動圏内になるようにするため、交通手段を充実する	取組 25 郊外から中心市街地へのアクセス性を確保する手段として、常澄地区を一つのモデルに次のように提言します。 中心市街地に通学及び外出する学生をターゲットに、常澄駅と東水戸駅へ向かうバスを誘致するとともに、それらのバスや鉄道の定期券の購入補助を行う。 ○備考 ・バスの誘致にあたっては、国の「市民参画型道づくり」のように、該当地区の学生や地域住民の声を聴き、効率の良いバスの運用を図る。（パブリックインボルブメント【住民参画】方式） ・参考として、境町では自動運転バスが運行されるようになった。
--	---

水戸市内の学生人口（6～22歳）



常澄地区の学生約 2,000 人を対象に中心市街地への外出をアクセス性向上によって図る

【背景】

現状の水都タクシーでは若年層の時間帯、利便性、運賃等のニーズを満たせない点があるため

【現状】

○水都タクシー・・・1,000 円/片道（10：00～16：00 の間利用可能）

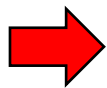
【提案】

○停留所⇄東水戸駅、常澄駅（バス）・・・現状、路線がないため、地域住民のニーズに合わせて誘致

○東水戸駅⇄水戸・・・220 円/片道

○常澄駅 ⇄水戸・・・240 円/片道

駅へのアクセスはバスだけでなく自転車も想定し、鉄道運賃を 100 円/片道相当を補助



学生の中心市街地への潜在需要を掘り起こし、街の賑わいを醸成



国土交通省道路局 市民参画型道づくり



茨城県境町 自動運転バス



2つ目は、「歩行中の犯罪被害を抑止する安全な環境があること」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】 非行的な行いを抑止する環境を構築するため、街灯を適正に配置する		取組 26 防犯灯補助金関連事業において、歩行者や車両に反応して点灯するスマート街路灯の設置を推進する。 これにより、光害の発生抑止及び、治安の維持の両立を図る。
--	---	--

画像
(著作権関係確認中)

参考：【TVILIGHT（オランダ）スマート街路灯】



【提言 15】「よその」移住者でも仕事・家・主要地とのアクセスなど生活基盤を確保しやすいまち

【理想とするまちの姿（要旨）】

テレワークの普及に伴い勤務地から離れたところへの移住を検討する人が増える一方で、本人あるいは同伴する家族と暮らす住まいの利便性、市内外へのアクセスの確保が必至である。

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「利便性も質も高い家もあり、家族に仕事もあり、何かあればどこでも行ける環境を地元の慣習を知らない移住者でも面食らうことなく確保できる」ことです。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】

①住まい

・賃貸物件・分譲マンション：同程度の条件での家賃相場は常磐線沿線の取手など県南地域と同程度であり利便性が低い割に価格が高止まりしており「コスパが悪い」。一方で分譲マンションでは駐車場が整備されないなど車社会の水戸とずれており暮らしづらさを抱える。

・購入住宅：まちなか補助金のエリアでは空家や更地があっても売買情報にはない。郊外の宅地開発エリアを勧められ、市のコンパクトシティ構想と相反する。建売の場合、長期優良住宅に適合しない劣悪な品質ものが多数があり長期的に住むことを想定できない。

・不動産業者：都内のガイドラインでは賃貸物件における貸主負担となっている鍵代を借主に負担させる、不動産情報として登録せずに仲介業者が限定される、土地購入の際に住宅メーカーからの謝礼金を要求するなど、ほかの地域からの移住者が負担が大きい独自の商習慣がある。

取組 27

①住まい

・賃貸物件：都内のガイドラインと同様の条例の制定

・マンション：建設時に 100%自走式駐車場の整備、断熱機密性能の保証、地震への対策、子どもの事故防止策など資産性と利便性を確立させられるガイドラインの制定。シェアカーの確保の義務化など

・購入住宅：まちなか補助金対象エリアでの不動産情報の公開を条件とした更地化の補助金、購入の支援金などで売買、あるいは市が都市計画として市有地を直接定住者に売却するなどで土地の循環を回す。店舗用物件も同様に街の土地のターンオーバーを促す補助金によるインセンティブを強化する

・不動産会社：市の補助金施策は全て不動産情報公開での一定期間掲載を条件とする、都内のガイドラインと同様の条例の制定、売買関係者以外からの謝礼の禁止など独自の商習慣の排除するガイドラインの制定

②交通網

駅やバスターミナルなどの交通網と周辺施設がコロナ禍によりサービスが縮小傾向にあり利便性が損なわれている。

②対市外との交通網の整備の強化

- ・アフターコロナでより利便性を向上させるための再編・改善を実施できるよう水戸市として事業者へ提案し、特急券の回数券や駅の駐車場利用券がついている商品など割引商品の開発などにも協力
- ・TX を水戸まで延伸すると JR 常磐線の特急廃止や本数減など利便性が大幅に低下する可能性があるため、TX 延伸に拘らず JR の常磐線の本数や利便性を確保できるよう JR にも積極的な働きかけや協議をする

【提言 16】自然環境にやさしいまち

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私がつくりたい水戸市は、市民一人一人が次の世代の人たちへまちを引き継ぐ意識を持っていることから、社会活動が自然環境と調和し、持続的に発展していくまちです。
- ・このまちの市民は、えこみっとに『子どもたちの未来を考えたまち』という思いを込め、えこみっとを起点に環境保全活動を行うとともに、環境に配慮したライフスタイルを送っています。
- ・このまちでは、「子どもたちの未来が明るいこと」により、移住・定住が促進されています。

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「えこみっとを活用した環境保全」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】

市民の環境保全意識を醸成するため、資源循環に関する情報の周知を図る。

取組 28

市職員が小・中学生に対して以下のような講演（出前講座）を行う。

・水戸市内で排出されたごみが、えこみっとでどのように処理され、資源として循環していくかを説明するもの

・より高い効果を出すため、保護者も参加することが出来るもの

○備考

子どもを持つ親は将来への意識を高く持っており、情報周知の効果が高いと考えられる。

市政モニター活動内容

令和4年4月21日（木） 市政モニター委嘱状交付式及び第1回市政モニター会議

【委嘱状交付式】

- ・ 委嘱状交付
- ・ 市長あいさつ

【会議内容】

- ・ 水戸市の状況等についての説明
 - 「水戸市の概要について」 政策企画課
 - 「市政モニター及び今後の流れ等について」 市民相談室
- ・ 意見交換等
 - 「市政モニターによる自己紹介等」

令和4年5月25日（水） 第2回市政モニター会議

【会議内容】

- ・ 水戸市の状況等についての説明
 - 「水戸市の移住・定住促進に向けた取組について」 政策企画課
- ・ 意見交換
 - 「「水戸市の移住・定住促進に向けた取組」について」

令和4年7月31日（日） 第3回市政モニター会議

【会議内容】

- ・ 意見交換
 - 「提言についての意見交換」
 - 「子ども・子育て支援について」

令和4年8月26日（金） 第4回市政モニター会議

【会議内容】

- ・ 情報提供
 - 「水戸市の取組の現状等について」
- ・ 意見交換
 - 「小テーマ「（仮称）豊かさと安らぎのあるまち」について」
 - 「「水戸市の移住・定住促進に向けた取組」について」

令和4年10月20日（木） 第5回市政モニター会議

【会議内容】

- ・意見交換
 - 「提言についての意見交換」
 - 「提言書（素案）について」

令和4年12月2日（金） 第6回市政モニター会議

【会議内容】

- ・意見交換
 - 「提言の発表について」
 - 「提言書（案）について」

令和5年1月17日（火） 第7回市政モニター会議

【会議内容】

- ・意見交換
 - 「提言書について」
 - 「提言の発表について」

令和4年2月20日（月） 第8回市政モニター会議

【会議内容】

- ・提言書の提出

市政モニター会議の様子

